

## 泌尿器科における検査衣と器具の工夫

南6階病棟 発表者 丸山 登喜子  
藤 森 ふみ子・丸山 ひさみ・新倉 千恵子  
山上 栄子・中田 京子・大平 綾子  
下川 富子・青木 瑞江・安田 妙子  
柏原 和枝・小林 千春・朴沢 裕子

### I はじめに

当科において、レントゲン検査は他の検査と並び診断上重要な役割を占めている。中でも、排尿時膀胱尿道撮影法は、全レントゲン検査の13.8%を占める検査であるが、羞恥心と強い緊張のため正しい検査結果が得られないこともある。そこで、我々は少しでも羞恥心をカバーし、早く正しい検査結果が得られるようにと、検査衣と器具の改善に取りくんでみた。

### II 研究目的

検査衣の工夫と排尿時受尿器の工夫

### III 排尿時膀胱尿道撮影法とは

#### 1. 対象疾患

膀胱尿管逆流現象 (図1)

神経因性膀胱

腎盂腎炎

遺尿症

#### 2. 目的

排尿時及び腹圧をかけた時の膀胱の収縮状態、腎盂、尿管、膀胱、尿道の形態異常の発見、また膀胱尿管逆流現象の有無を知る。

#### 3. 方法

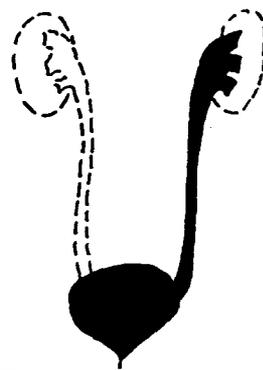
① 検査直前に排尿させておく。

② 患者に下半身の衣服をとらせ、検査衣をつけ、X線台上に、仰臥させる。(図2)

③ ネラトンを挿入し、残尿を測定後、尿意を感ずるまで造影剤を注入する。

④ 臥位、立位で撮影後、受尿器をとりつけ、立ったまま排尿中の状態を撮影する。(図3)

⑤ 撮影後、受尿器を取りはずし終了する。

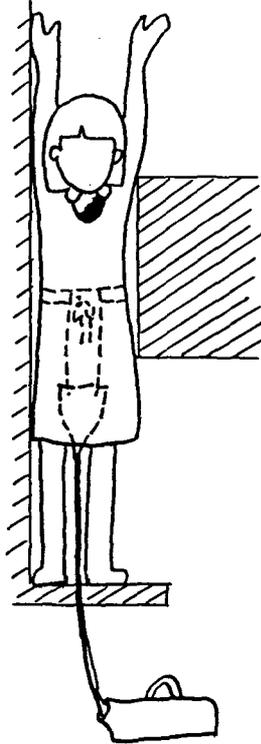


(図1)



(図2)

(図3)



#### Ⅳ 実施および考察

対象は成人女子とした。

##### 1. 検査衣の改善

現在まで、使用していた検査衣は、着物式で前部の露出が大きい、器具の操作時後ろが長くてじゃまになる、寒いなどの欠点があった。そこで次の項目を重点にジャンバースカート型とエプロン型を考案してみた。

- ① 着脱の簡単にできるもの。
- ② X線に透過性があり、造影剤がしみこまない材質のもの。
- ③ 膚ざわりがよく透けないもの。
- ④ 丈夫で洗えるもの。

##### (イ) ジャンバースカート型 (図4)

素材：ビニールとする。

長さ：成人女子の標準身長の子の膝までの  
100 cmとする。

幅：成人女子の標準臀囲+30cm

形：えりぐり、袖ぐりを充分あける。

横あきにし、2ヶ所ひもで縛る  
ようにする。



(図4)

##### (ロ) エプロン型 (図5)

素材：ビニールとする。

長さ：80cm

幅：上 70 cm

下 120 cm

形：たがねのはいったエプロン型  
 以上2つを使用し、次の点について患者、  
 使用者からの意見を聞いた。

○アンケート内容

- ① 肌ざわりが冷たくないか。
- ② 恥かしくなくできたか。
  - イ 検査自体が恥かしいか。
  - ロ 検査衣をつけることで少しでも軽減できたか。
- ③ あつくないか。
- ④ 付けやすいか。
- ⑤ きつくないか。
- ⑥ エプロンのたがねは痛くないか。
- ⑦ 長さについて

その結果次のようになった。

	① ジャンバースカート型	② エプロン型
利 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○横あきで、処置がしやすい。</li> <li>○ゆとりがあって、着やすい。</li> <li>○外見がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○たがねの操作だけで着れる。</li> </ul>
欠 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肌ざわりが冷たい。</li> <li>○えりぐりがV字型で着にくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肌ざわりが冷たい。</li> <li>○たがねがずり落ち、写真に写る。</li> </ul>

以上のような利点、欠点ができた。

エプロン型は、たがねがずり落ちてくるため、写真に写るという大きな欠点があることがわかったので、これは中止し、ジャンバースカート型のものにしばって考案した。(図6)

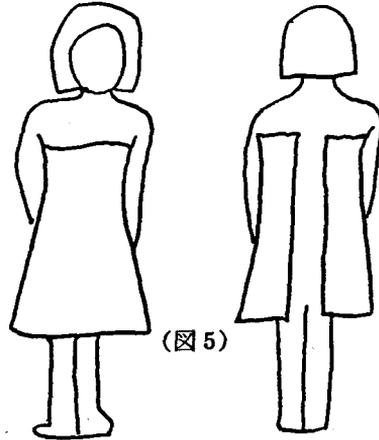
素材：コールティングした布地とする。

造影剤がしみ込まないよう、中表にした。

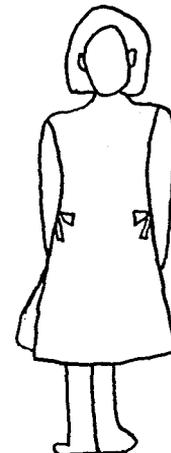
形：えりぐりをU字型とする。

これを使用し、再度患者、使用者の意見を聞いたところ、次のような結果がでた。

- 軽くて着やすい。
- 肌ざわりがよい。



(図6)



- 受尿器が見えない。
- 両脇が開いているので、簡単に前を上げる事ができ、検査のじゃまにならない。
- ゆとりがあるので、体型を選ばず太い人にも細い人にも着用できる。

これを使用して見て、検査時間も短くなり、羞恥心も軽くなったと思われる。この検査衣は他のX線検査にも使用していくことができる。さらに子供用の検査衣も工夫改善していく必要がある。

## 2. 受尿器の工夫

今までは、ポリエチレンの葉びんの底を抜き、ロート状にして、安楽尿器にセットして使用していたが。(図7)

- ① 密着しないため尿がまわりにもれる。
- ② 大腿部にあたるところが痛い。
- ③ 固定に時間がかかる。

などの欠点があり、次のものを考案してみた。(図8)

材質：X線に対して透過性のあるツアーネの材料(オルソプラスト)を使う。

形：前後を高くしたボート型にする。

固定方法：細いだて巻きを腰に巻き、受尿器にひもを付けてそれを結びつける。

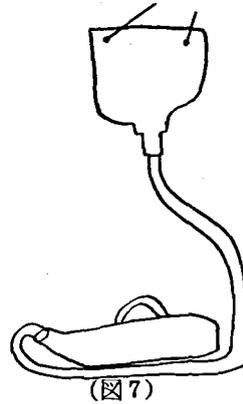
これを使用し、患者、使用者に意見を聞いてみた。

### ◦ アンケート内容

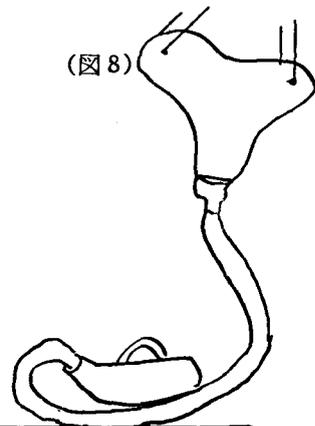
- ① つけやすいか。
- ② きつくないか。
- ③ 痛くないか。
- ④ 重いか。
- ⑤ 尿が器具からもれるか。
- ⑥ 排尿しやすいか。
- ⑦ 尿がはねるか。
- ⑧ 器具を取りつける間が長いと思ったか。

その結果次のような利点・欠点が出た。

利 点	欠 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 皮膚に密着し、尿がもれない。</li> <li>◦ 尿がはねない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 受尿器・ホースが重い。</li> <li>◦ ホースが不透明なため尿がみえない。</li> </ul>



(図7)

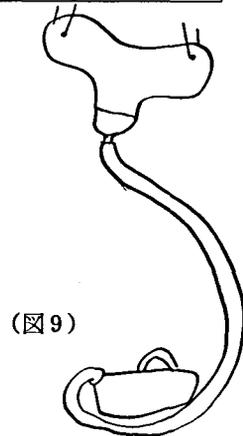


(図8)

- 肌ざわりがよい。
- 以前に比べて固定しやすい。

- 尿を溜めておく容器が軽いので不安定である。
- 固定に時間がかかる。

そこで、以上の欠点を考慮しホースを細くしたものを再度作り使用したところ、ホースと尿を溜めておく容器の欠点は解決され、以前よりは使いやすくなった。が、受尿器が重い、操着に時間がかかるという欠点があり、材質の研究、操着の工夫さらに小児用の受尿器の改善を行なってゆく必要がある。(図9)



(図9)

## V おわりに

排尿時膀胱尿道撮影法は、患者から羞恥心を取り去ることはできないものと思われるが検査衣の作成、器具の改良によって、羞恥心を少しでも軽減でき、より正しい検査結果が得られるようになったと思われることは、患者にとっても、医療スタッフにとっても幸いな事であると思われる。

検査衣も器具も、まだまだ問題点は多く残されているが、今後さらに、患者さんの協力を得て、改善してゆきたいと思う。

私たちは、この研究を通じ慣れや忙しさにおわれ、つい羞恥心に対する心配りをおろそかにしてしまいがちだが、やはり患者の立場に立って看護してゆくことが大切であると改めて感じた。